

中干しは遅れずに行いましょう!

1. 生育状況

「コシヒカリ」や「みずかがみ」の早生品種の生育は、気温の変動が大きかった影響で平年よりやや遅れています。また、深水管理のほ場では、軟弱徒長の稲がやや多くみられます。



中干し開始適期の株張り程度(目安)

2. 中干しの実施

中干しで、根張りが良くなります。中干しは、軽くひび割れ、足跡がつく程度まで行い、地耐力を高めましょう。なお、中干しは自然減水で行いましょう。



中干しの程度(ひび割れと足跡)

○中干し開始時期

4月下旬移植では6月5日頃、5月上旬移植では6月10日頃、5月中旬移植では6月中旬頃を目安に開始しましょう。

【中干し開始時期の株あたり茎数のめやす】

栽植密度	50株/坪	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	20~21本	17~18本	14~15本
みずかがみ	—	16本	14本

○溝切り

中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。

溝切り数日前に水を切り、田面を少し固めてから溝を切ると崩れにくい溝ができます。

- 1) 溝切りは、1本/10a*以上が基本です。収穫前に乾きにくいほ場や水稻跡に麦を栽培する場合は、溝の本数を増やしましょう。
- 2) 溝と尻水戸をつなぎます。

※環境保全型農業直接支払で「長期中干し」に取り組むほ場は、溝切りは1本/10a以上、中干しは14日以上実施して下さい。